

## 春雪の赤岳主稜

期 間：平成 28 年 3 月 12 日（土）～ 3 月 13 日（日）

種 別：個人 参 加 者：富岡 山 域：赤岳

コースタイム：

3/12 自宅(6:30)⇒美濃戸口(11:00)⇒赤岳鉱泉(14:30)

3/13 赤岳鉱泉(6:00)⇒主稜取り付き(7:00)⇒上部岩稜上(8:20)⇒赤岳山頂(9:00)⇒赤岳鉱泉(10:30)⇒美濃戸口(13:30)⇒自宅(17:30)

今回は、赤岳の西壁北峰リッジ(赤岳主稜)に挑戦した。天候とガイドに恵まれ、岩と雪のミックスルートを登り切ることができた。

3/12 天気：曇り

美濃戸口までのアクセスは、JR 八王子駅から特急あずさで茅野駅までゆき、バスを利用した。

1 日目は、宿泊する赤岳鉱泉までの短いルートでザックも軽いので、気持ち的にも体力的にも余裕がある。3 時間程度で初日を終え、翌日の主稜チャレンジに備える。今年は雪が少ないと言われるが、数日前に雪が降った影響で雪の量は問題なさそうだ。夕ご飯は赤岳鉱泉の名物ステーキを食べ、エネルギーチャージもバッチリ整った。

3/13 天気：晴れ後曇り

風もなく、天気もよく、恵まれたコンディションとなる。

赤岳鉱泉から行者小屋に進み、文三郎尾根を登る。尾根には山頂を目指す多くの登山者が歩を進めている。樹林帯を抜け、急な斜面を登ると、西壁の取り付きに到着する。サラサラした雪が風に舞う西壁への取り付きにトラバースしてゆく。



【西壁取り付けから阿弥陀方面】

アイゼンを履いた状態での岩登る経験が少ない私は、3点確保・足場確認という基本を大切に登る。雪・氷・岩・土と表情が違うルートは、注意深くルートを確認しながら、登る。このような基本的な行動をしながらも、反省点が生まれる。上部岩稜のチムニーを抜ける際の足運びはイマイチだった。最終ピッチのルート選択が適切ではなかった。などの反省点がある。一般登山道に比べ、危険度の高いバリルートはこのような反省点が極力少ないに限る。



【上部岩稜から阿弥陀方面】